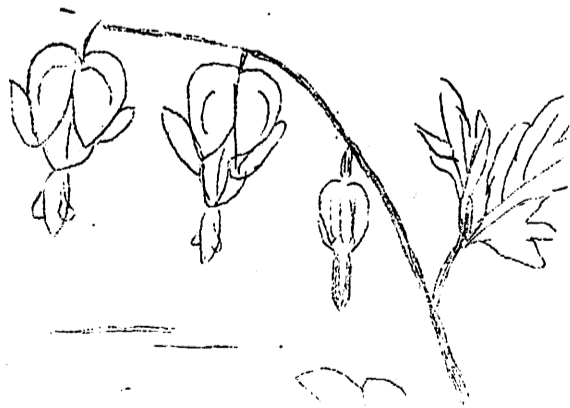


南アルプス合宿報告

1961年6月10日~17日

信州大学山岳会
伊那山岳部(S.I.A.C)



合宿実行までの経過 (その1)

我々が6月の合宿を断行することは、半ば無意識的に感じていたが最終案を決定したのは6月6日であった。遅すぎた感がある。以下、それまでの経過を順を追って書きます。

○ 5月19日の役員会で詳細計画決定。これによる6月は北岳周辺として、期日等は次のようなものでした。

- 目的 ① 北岳周辺の地理を知る、② 冬山、夏山の下校分、③ 沢についての免3強
- 期日 実動12週間で準備日数2日程度とする。
- 形態 教班にゆがれず、縦走や半定着に大り調査する。
- 費用 食費1200円以内。送迎費として参加者より100円、不参加者より200円づつとする。

○ 5月20日の部会では次の如く決定しました。

① Xメンバーが多数。

- a) 北岳バットレス隊 (今後登山本部でしばしば行なうバットレス隊の偵察)
 ↳ 葛西正美, 出島五郎, 宮内宣雄
- b) 北岳鎌尾根隊 (冬山でカマ尾根へ行く予定なのでその偵察を行う。)
 ↳ 佐藤友一, 寺田雅治, 小川永行, 川崎重成
- c) 白根三山縦走隊 (夏山を縦走するにあたり冬山縦走のための白根三山附近偵察)
 ↳ 主計勤世, 奥島啓志, 砂川祐司, 玉井洋明, 加藤竜一, 新井英

② 期日 8日間で2週2日

③ 予定

1日目 伊豆一歩堂 - 北沢峠 - 仙丈岳
 2日目 加茂 - 伊豆山麓 - 五岳山
 3日目 伊豆山麓 - 加茂
 4日目 北沢峠 - 伊豆山麓
 5日目 下山

期日および各係は役員会で決定する。

市田、末次、村瀬は参加するか保留

その後の役員会で隊員の組み合わせが定まりました。

バットレス ↳ 葛西, 宮内, 奥島
 カマ尾根 ↳ 出島, 寺田, 小川, 川崎
 縦走 ↳ 主計, 加藤, 玉井, 砂川, 新

又は
 バットレス ↳ カカイ, 宮内, 川崎
 カマ尾根 ↳ 出島, 小川, 寺田, 砂川
 縦走隊 ↳ 主計, 奥島, 加藤, 玉井, 新

「選みます。」
 (選ばないというのでかたして)

その後、榎藤が参加できなくなりました。

5月31日の部会で次の如く決定した。

Xメンバー { バットレス ↳ カカイ, 宮内, 葛西, カマ尾根 ↳ 出島, 小川, 砂川, 川崎
 縦走 ↳ 主計, 奥島, 玉井, 加藤, 新

○ 各係 会計: 新, 送迎: 加藤, 川崎, 食料: 宮内, 小川, 玉井, 口袋: 出島, 寺田, 新

○ 6月20日〜27日の日程とする。(5週連続3日休)

○ 雨期までのコースは、野呂川に過境行かず、仙丈越えで行くかについてはまだ未定。

○ 状況によれば、合宿終了後、何人かが伊豆山麓へ行く。(希望者 出島, 小川, 川崎)

6月3日 部会

各係の進行状況確認
 川の踏渉法等の各自研習比較のこと } 委を言合(市田)

出島、宮内が参加できなくなりました。(出島: 足の怪我、宮内: 腕部疼痛、判断)
 (内山ゴロちゃんでも怪我をす)

合宿実行までの経過 (其の2)

6月6日の部会で次の如き最終案を出した。

出島、宮内 両名の不参加で計画を変更、3パーティを2パーティにする。バットレス隊を中止して、バットレス及び小太郎山の偵察は縦走隊がその一部を充てる。(あくまでも、余裕の余裕場合に限り、メンバーはリーダーに1名) 鋸岳縦走はとりやめにする。

メンバー

カマ尾根隊 C.L. カサイ, 小川, 寺田, 川崎

縦走隊 L. 主計, 奥島, 加藤, 玉井, 新, 石少川

食料の買い出しは夕日に、伊那市通り町、亀屋にて午前中に行う。

出島、宮内 両氏は、参加できなくても、装備、食料等に、積極的に協力していた。

6月8日に食料買い出しをして(午前中)午後、部室前に全員集まってハツキングをやるまでの間に、食料の一部を盗まれた。遺憾ながら盗難にあつたのです。

上述の如く、頭初の計画と最終計画はかなり異つたものであります。

9日は雨のため出発延期で10日に全員元気に出発しました。未知の山のたがいで胸をふくらませて。

②南ア合宿装備リスト (川崎)

品名	カマ尾根隊	縦走隊
テント (夏)	4人用(環型林) 2人用(小川用)	7人用(本部)
ナイフ	11mm 30mm (1)	12mm 40mm (1)
捨てた	(3)	(1)
ハーケン	タテ (3) ヨコ (3) 兼用 (2)	(3) (3) (6)
カラビナ	(1)	(10)
ハンマー	(2)	(2)
ラジオ入	宮内 川崎 白川 (2)	末次・加藤 (2)
石 油	6 L	8 L
石油ポンプ	(1)	(1)
ナベ	コッヘル (2)	ナベ (2)
食 器	(10)	(14)
ハ シ	(4)	(8)
シヤモジ	(1)	(1)
お 玉	(1)	(1)
庖 丁	(1)	(1)
タワシ	(1)	(1)
ウチワ	(1)	(2)
ローソク	(数本)	(数本)
メ タ	(3)	(3)
カメラ	村瀬 川崎 (2) 奥島 加藤 (2)	
フィルム	白黒、カラー (各1)	白黒、カラー (各1)
	(新聞社 田部先生 250より)	
ラジオ	高田 川崎 (2)	オシマ 石少川 (2)
天候用紙	(数枚)	(数枚)
最高最低温度計	(1)	(1)
薬 品	(数種若干)	(数種若干)

反省と雑感

出発の際に庖丁を忘れた。このような小物は混乱紛失しやすいので、もと注意しなければならぬと思う。

ウチワは、破損するので代りに火吹き竹をもち行つた方がよい。

カマ尾根隊は、コッヘルが新しいので石油を毎回使用したが、縦走隊の経験でも判る様に、薪の供給が充分あるので石油は予備以外あまりいらないと思う。石油は約3 L 使用。

ラジオ等個人からの借用に、頼っていたが、冬場には、部で揃えておきたい。

フィルムを田部先生や新聞社よりいただいたので助かりました。

テント内での整理正頓が悪かつたので、隊別に分ける際に不手打ちがあつて申しわけない。

不慣れ不勉強な為に、いたらぬ点が多く申しわけない。

縦走隊 テント撤収の際、ペグ 4本紛失。同隊鋸岳でハーケン一本使用。

以上。

メンバー

鎌屋根隊

L: 葛西正美 (林3)
 食料: 小川永行 (12)
 気象: 寺田雅治 (11)
 装備: 川崎誠 (11)

縦走隊

L 主計勤也 (林3)
 食 砂川裕司 (畜2)
 気 新幸英 (林2) 兼会計
 医 奥島啓志 (11)
 装 加藤竜一 (11)
 食 玉井洋明 (畜2)

連絡本部

長野県伊那市外 信州大学農学部 厚生補導係

顧問 中村 俊幸 (森林化学研究室) TEL 2178

残留部員

市田敏之 (林4) 佐藤雄一 (林4)
 木次哲夫 (畜4) 出島五郎 (林2)
 宮内宣雄 (畜2) 村瀬史朗 (畜2)

会計報告 (新)

収入 合宿費 $1500 \times 10 = 15000$
 残留者均 $150 \times 6 = 900$
 計 15900

支出 食料 10666
 装備 1650
 医薬 120
 交通 2500 (125 × 10 × 2)
 計 14936

残高 964円

部費繰入也。

なお、食料盗難のため
 約600円を再び買い足しま
 した。もし盗まれなかった
 ら 約1500円のあまりになり
 このような多額の残金
 が出るとは合宿に決定
 をかして一考を要すること
 と思います。

(市井の声) その通り!!
 まつとまけてくれ

Essen 報告

・ 鉄屋根隊 小川永行
・ 縦走隊 砂川祐司

反響と雑感

今回の山行の季節は梅雨期に撞き、各々の準備は慎重にならざるを得なかった。どんな山行にも腐敗しやすい時期の携帯は許されていないが特に今回はその事まで気を配りましたが一部に腐敗はありました(→ハム、ヤサイ)

5/1Aとして初めの試みとしてパンを特別に栄養の点で考慮に入れた。注水した。山行前例はパンは後半頃より味が劣る。かなり暑い時はカビがまわらざるがこのパンだけは腐敗せず、むしろ山行中ずっと新鮮な状態を保つことができた。山行中の時(梅雨期の時)

山行計画に在りての変更があり、その結果、計画も根本的に改められた。計画は5/5迄を作り出された。それより前、計画と立てた計画が山行の表になったことになった。

また、出発前に所定・積物・シール・等々(送貨)し、所定は行中のEssenに際して来た点(特に積物・シール)があった。Essen内容は一般的なうまみや、野山に多い。

野山の量が少なすぎたこと。アメが重要以上にあつた様に思う。

米を我々は一食15合として見込んでいたが、朝食において15合は少し多いのにはなるが、縦走隊はよく朝食が食べ切れず無理して買物をした例あり。これはパンカンズをより、アメの割合が多い。

鉄屋根(縦走)隊に別ける(Essen)時期的には一隊の別隊、別隊といふのが、山行中の計画がわりと異なる。

食生活

	6月 10日	(10日) 11日	(11日) 12日	(12日) 13日	(13日) 14日	(14日) 15日	(15日) 16日	(16日) 17日
朝		飯と シヨ汁 フイモの	K)飯とシヨ汁 タコパン	K)飯とシヨ汁 タコパン	K)飯とシヨ汁 タコパン	K)飯とシヨ汁 タコパン	飯と食	飯と食
昼	パン シユース 夏野菜	K)パン シユース 夏野菜	K)パン シユース 夏野菜	K)パン シユース 夏野菜	K)パン シユース 夏野菜	K)パン シユース 夏野菜	K)パン シユース 夏野菜	パン シユース
夜	ハムライス	K)飯と カレー	K)飯と カレー	K)飯と カレー	K)飯と カレー	K)飯と カレー	ハムライス	
間		シヨ汁 ドロップ	K)シヨ汁 ドロップ	K)シヨ汁 ドロップ	K)シヨ汁 ドロップ	K)シヨ汁 ドロップ	下山コンパ と、チフト を食する	

K) 鉄屋根隊 縦走隊

パンは1個30円 若増特製
30個 特別三生スル

含有物	量(g)	cal	含有物	量(g)	cal
小麦粉	170	451.1	イースト	4	—
砂糖	15	58.5	食塩	1	—
卵黄	12	48.0	有糖スル	少々	—
バター	17	124.78	サツカリ	—	—
脱脂粉乳	3	10.71	水分	50g	—
玉子	6	9.12			

1個別

合計 240g

722.21 cal

ビタミン A=291 IU

" B₁=0.2769 mg

" B₂=0.7917

" C=0.150mg

行動経過

葛西正美、並野勤世

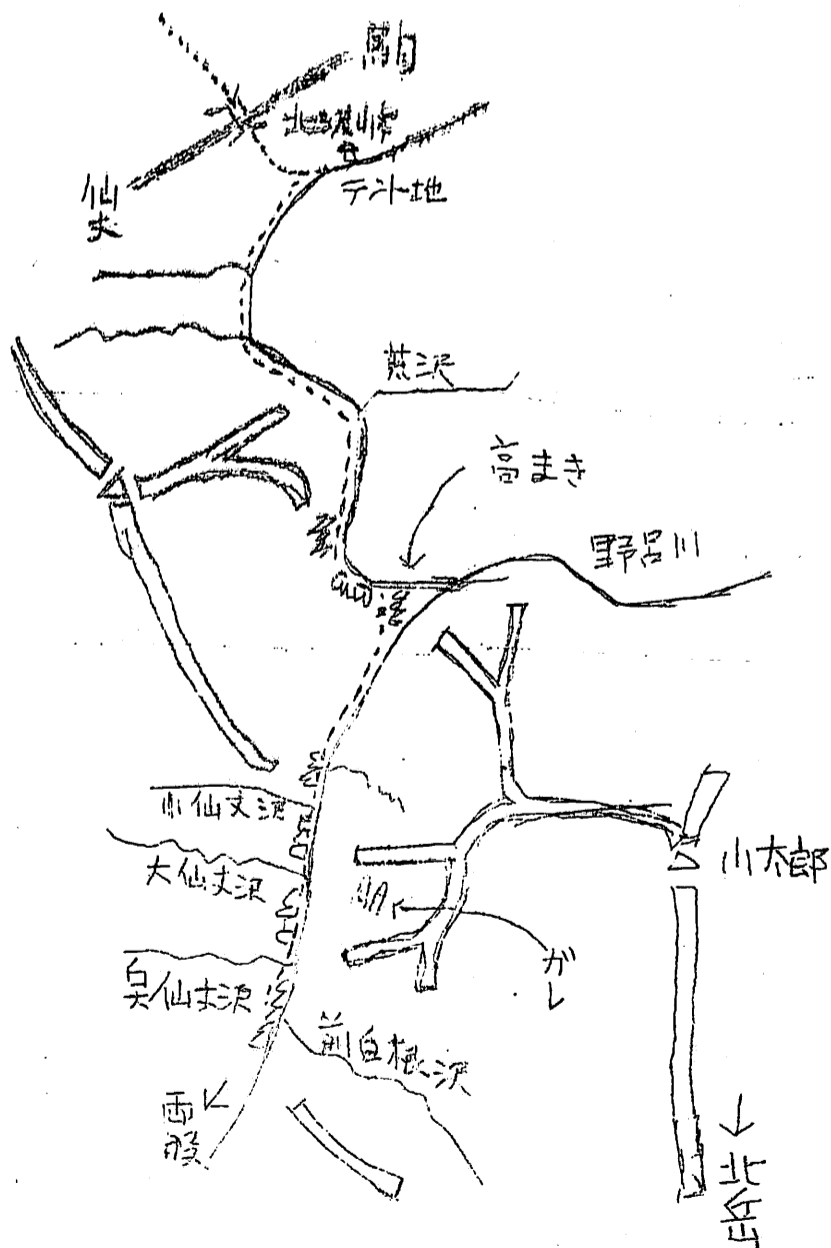
10日(初日)
 伊那北沢 6:15
 戸倉 7:30~8:00
 白鳥鍋(林) 8:35~8:50
 川崎ハツチニク直す
 渡渉 9:20~10:15
 出発 10:30
 竈木屋決出合 11:05
 ~11:15
 丹波小屋 12:00~12:40
 (15人決出)
 ハ丁坂終り 1:30~1:40
 休 2:35~2:40
 北沢上 2:55~3:05
 北沢小屋 3:15
 就寝 3:00

戸倉川は増水のため、あつらは川原の所までが
 びしょ濡れと濡れていた。
 薪置の多くはサイル使用のザック送りを矢張り
 ので最初からついた。
 渡渉中足指がすりばたき 2名
 薪を睡眠不足で鼻血を出したり、マイカと
 し、腫れがひどかった。
 (覚悟) さりぬけ霧雨程度で、かえって涼しく
 歩きやす、薪の森も風情があったが
 よい雰囲気はとれなかった。
 (その他) 出発直前には草化口を先せんたり、
 せつやくがいた。

11日(2日目) 隊別行動
 (快晴) 葛西正美

(以他 鎌屋根隊) 小川、寺田、川崎

エッコ当番起床 5:00
 全隊起床 5:50
 朝食 5:55
 徒走隊出発 7:00
 カマ根隊 7:30
 野呂川出合 9~9:30
 小仙丈出合 10:20~10:40
 前白根隊 11:50~12:00
 野呂川 2:30
 荒沢 3:00~3:30
 テント着 4:00
 夕食(カレー) 5:40
 就寝 8:00



北沢 → 野呂川
 左岸を川に行くと
 野呂川 湖行 左岸森林中に
 左岸を川に行くと テト地あり。
 鎌屋根は樹木(シラベ)が
 密生して、傾斜もきつ。下部は倒
 木ともろい岩面の露出がある。
 野呂川は増水するとふたより50
 cm位、水位が上がる様子。

行動 (鎌屋根隊)

12日 (3日) 仙丈岳往復

起床 5:00
 出発 17:35
 5合目 8:20~8:35
 小仙丈 9:10~9:40
 仙丈岳頂上 10:15~11:30
 5合目 12:10~12:40
 テント着 1:15

(天気) 晴、午後曇多し、南の風
 (装備) カマス、眼鏡、ヒョケル(足用セブ)

★ 南アでも"商売"が出来ます。
 仙丈岳テント付近の雪渓で白桃
 汁がとれました。モロケタ

① 天候が下り坂なので、仙丈へ行き北岳を撮影。登山中 天候は曇りおたのでヒョケル下る。
 カマ屋根お、小室郎道まで 雪が丸窓林と書いてある。

② 仙丈より、馬場利史家死の偵察

- ① 岩は大まかに走らせろがある。(且仙丈は花崗岩) (無氷)
- ② ソック履は 定して困難と思えない。途中に底リチース、バンドがある。
- ③ 午後 かなり天候悪く 凍って来た。前山道等の雪は凍り付いて居る。今まで踏破して
 いたのは、あんなに楽ではなかった。

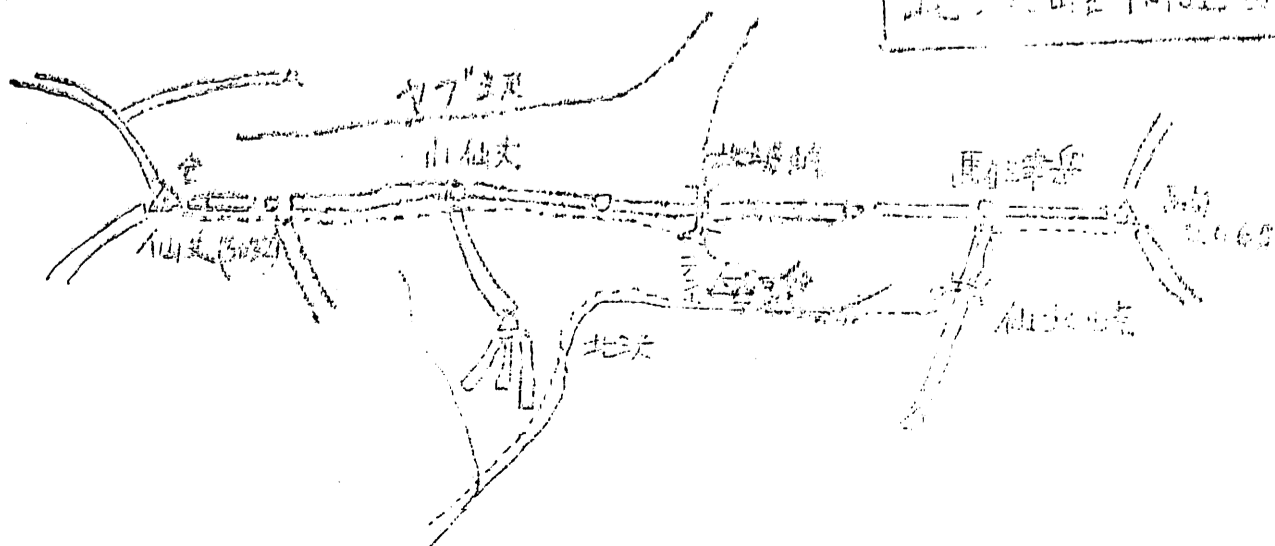
13日 (4日)

北沢テント地に7 晩 寝

起床 4:00
 出発準備 5:20
 天気圖作成 5:45~6:10
 テント地出発 6:15
 荒波争前 7:10~9:20
 (気象通報せよ)
 北沢テント地着 10:10
 降雨 12:30~2:30

出発時は雪の積出が厚いのが晴天で、
 5:45の気象報道で、北沢山を雷りたが、雪を下げた
 一雨、雨後の出発(テント地着)。荒波の争前、西の風
 となり、越戸履(4時)が、かなりの速さで凍れる。
 9時の気象報道は、(北沢山は 13日(右)が台時々晴
 曇りとなり、14日(左)は日中曇り、雨に降って
 雷雨と放逐した)。天気図もかなり悪く、厚
 を出して引退した。午後、山がかなり、雨と雪。
 夕方は、夜のような西。雪降りで、
 カマ、歯痛のため、寝がよらぬ。他3人は、快楽よく飯
 くら。

北沢山 附近 略図



鎌及根隊行動 14日(5日) 融件復

起床 6:00
 出発 7:15
 仙北峠 8:30~8:50
 駒峰 9:35~9:50
 駒頂上 10:30~11:00
 天斗地着 12:20

午前中くもり
 西の風(南にNW)
 午線 雨東南の風
 梅雨前線中
 の低気圧?

与起の予定が雨と感さかしの12時
 時まで始まった。
 くもりでハッパ。前日天気圖と比較
 して尚ほ方そう。と思つて、駒
 へ行く事にする。
 仙北峠で夜利支天の雪をボンス。こ
 別にすびいものではない。おまりの高
 本デブッシュ があり、地味多い花崗岩
 テントに降り 融けはどして雨が降りた。

駒頂上から見ると伊那谷の上は白く雪。おがかは平地に見える。中ア、北ア、オムケ、東駒
 は島のような。北岳稜線の東側は雪におおわれ、2~3日の降雪は豊かすと
 して北岳登頂はさそめる。

皆のテントのワークが悪くなった。テントの入口にビニヤ紙屑をあき放しにしたりして

15日(6日) 沈澱、自由行動 奇山、アサユ山往復

出発 10:20
 栗沢山 11:30
 アサユ山 11:45~11:55
 アサユ山東に2日 12:30~12:48
 のピーク 1:05
 西ニE11
 テント地 1:55

(天候) 快晴、梅雨前線は高気圧におされて

南を海上にすがる。そのため全口的に晴れ
 夜利支天、小仙丈がまっ白。(夕方まで)に雪は消
 えた。

前日の雨は降り止み、ラジオによると明後日
 より下り坂にあつた。北岳は行けなくなつたし、駒、仙丈は行った。夜利支天は今日は見合
 せぬ。故にやむを得ず沈澱自由行動とする。昨日の雪は稜線ではミソレから雪に
 なり今朝の駒、仙丈はまっ白。西日はアサユで北岳をカメラにあててくる。 した
 縦走隊は今日来る筈だが、夕刻5時になつて音響が来ない。昨日のミソレで沈澱らしい。

16日(7日) 沈澱、縦走隊帰る

エッセン 9:00 くもり、夜に突つて雨、風あり日中は北北東?
 縦走隊帰る 11:35

仙丈で栗溪訓練でもと思つたが全員の都合で思ひ違ひに沈澱にした。昼近く縦走隊帰る。
 5日ぶりでお互に元気、なんたかうれいようと思つた。
 今日の合宿はカマ根はとりつけなかつたし北岳も行けなかつた。栗駒、野呂川、仙丈、鎌、
 早川根をトレースしたので、朝の概念をいかにかきとるのみ込みをと思ふ。特に夜利支天
 の鎌の撮影は貴重な記録(参考)になると思ふ。今日、気象で失敗した。全員が気
 象をもと研究しなればなれない。夜はピンポイントで小コンパ

17日(8日) 下山

起床 5:00
 テント撤収 7:20
 出発 7:40
 ハッ坂下 8:35~8:45
 戸台着 10:15
 大学着 3:0

雨のちくもり。戸台川は増水してはかつたので、行程がはかどつた。

撤収の際、主たつりつた。紐切り物を紛失した。
 ハッ坂の悪り道で2分ほどつた。
 朝の出発時の忙がしい時、リーダーに馬断でいなくなった
 者がいた。(キツク、必らず断つてから行くように。

縦走隊行動経過) 主計勤也

天候等により白根三山縦走を鳳凰三山縦走に変更した。

Galla 工地 終了

6:10
出発
休
7:35 ~ 7:45
仙水峠
8:20 ~ 8:50
休
9:25 ~ 9:35
小松峰
10:25 ~ 10:40
大方石(中食)
11:10 ~ 12:10
休
12:40 ~ 12:50
駒頂上
1:20
休
2:25 ~ 2:35
六合目小屋
3:05
食事始
4:25
〃 終り
6:20
消燈
8:00

峠頂上のぐまの巣、仙水峠の手前には池あり
水使用出来る。駒頂峰まではほつきりした道を
直登大方石では時間があり水を必要とするとき
は右側の架りかた下った所にある駒ヶ岳は直登も
出来るが石をまいて登る途中小雪あり六合目
小屋まで2ヶ所固定針金の所があるがたいた
とニ多きは荷い小屋は倉州側で石室の感じ無人
がキヤンパイン水場はがう場を15分下った所
キャンプ地ナ
Member 2名程バランスがわるかった

6月12日

出発	6:20	足穴	10:32
三頭頂	6:45	オー高尾	10:46 (キャンプ)
中川乗越	7:30-7:40	大キレット下部	12:55
オ2高尾	8:07	オ2高尾	12:45-13:00
大キレット	8:20	中川乗越	13:18-13:30
大キレット上部	9:00	六合目小屋	14:30

中川乗越まではほつツウの縦走路である。乗越がオ2高尾へは正座のガレを右側降り下を
伝ってオ2高尾にいたるなお中川乗越甲州側にテント地(4.5坪)に由り15分下りれば
水がある(推定)オ2高尾からすぐ下が大キレットで毎年のガレを下降して大キレツ
ト下部に行くのがガレが多く、二山をさけてオ2高尾をまきルマルルートに出て大キ
レットよりくるガレを下り少した側正座のガレを登る途中オ2高尾のベースでアイクスする。これ
をためると足穴である。この下が小キヤンパインオ2高尾の登り10分加少大バランスを要する
する。オ2高尾には主計勤也奥島のみが行く。ここを登る時で縦走するのは時間とすくなく
尾根直して行くのも無理ではないが、全量かいくのは疑問を感じる。なお三頭一筋千一
熊穴沢の間は倒木がいちぢるし。

6月13日

小屋巻	7:15	摩利支天	9:20-10:00	仙水峠	11:45
1本目	8:10-8:15	大方石	10:35	テント地	12:00
駒ヶ岳	8:40-9:00	駒頂峰	11:07		

天候がほつきりしないので半休とする。摩利支天へは高尾の登り15分位であった甲州側の
登はオモシるそうだが、仙水峠より北正座の林のテントを及ぶ時、池の水が少し水場
まですく(4分位)

6月14日

テント出発	6:50	仙水峠	7:10	1本目	7:40	霞沢岳	8:30-8:40	アサヨ山	9:35
2	10:20	5本目	11:05-11:15	早川尾根小屋	11:48	テント設置	13:00		

高尾よりなので出発仙水峠からの甲州側は曇った。入るまで入るまでがカキミの1カ所、仙水
中川アルプス、北アルプス連峰はほつきりヒキえる。アサヨ山は思いの外早くついたが早
川尾根小屋までは下りがひどく全員バテ気味。小屋でテントを設け、早川側のカサリ仙水も
カサリ雪が降り出す。今日の縦走は早川尾根小屋としていたが、早川側はと北正座の
ラッシュユが出来なくなるのでここはテントを設け、早川側をぬく事とする。設営後雨と

6月15日

出発	7.05	コル	9.25	コル	12.00	高嶺	13.40
志河原峠	7.20	観音寺	10.05-10.15	アサケP	12.20	白鳳峠	14.00-14.10
白鳳峠	8.00-8.15	薬師峠	10.30-11.15	地蔵岳	12.35	志河原峠	14.50
高嶺	8.45	(エッセン)		アサケP	13.05	テント	15.30

昨日の予報が嵐に似る事にする。しかし朝が曇るときは妖晴かある。北岳、仙丈は新雪のため白銀に輝いて11.30。雪は2500m以上である。薬師往復に11.40と予想する。加藤は力が気味。コンデニオンがなくなりのでキーパートを残す。始めからとばす雪の状態が11.30からバヤミより早くつく。

6月16日

出発	7.15	アサケ峠	9.20-9	仙丈峠	10.35-11.00
P.P.コル	8.10-8.20	3本目	9.40-9.50	北沢ランド地	11.50
P	8.40	栗沢山	10.00	ランド設置	13.00

天候あまりはつきりせずしかし高く曇り。今日は北沢へ向う全員快調に歩く。甲州側には雲海がハシ岳がセウコンとまわっている。北沢テント地で鎌倉根隊と逢う。彼等も天候のくすしさを予想して行動を止めたらしい。元気が運中は仙丈に行きたいと勇気立つが。明日の下山のうれしさをかかせぬ。テントをほす頃静かに霧がおりて来た。

反省 起床はぐん速にする事

テント内はよく整理し まちがって自分の物を無くしたりせぬ様

装備のうち細いモカポール巻、ペグ等 紛失せぬ様に注意

自分から仕事をきつて動かす事

医薬 奥島啓志

使用したものの		使用回数
赤チン	足の豆と牛を岩に引っかけて傷に使用。	3回
セロロガン	飯の食いすぎによる腹痛(1回2錠あげ)	11回
胃薬	月に共う腹痛。	1回
風邪薬	雪が降り急にその日は冷えたため。	1回
鎮痛剤	歯痛に使用。	6錠
絆創膏	足の豆に使用。	2回
ビタミン剤	不足がめだつたため縦走隊に10人装備のビタミン剤を支給する。	2回
その他の携帯品	ペニシリン軟膏、脱脂綿、ガーゼ、包帯、ポリセット、油脂、キシロリタム	

反省 及 気づいた事

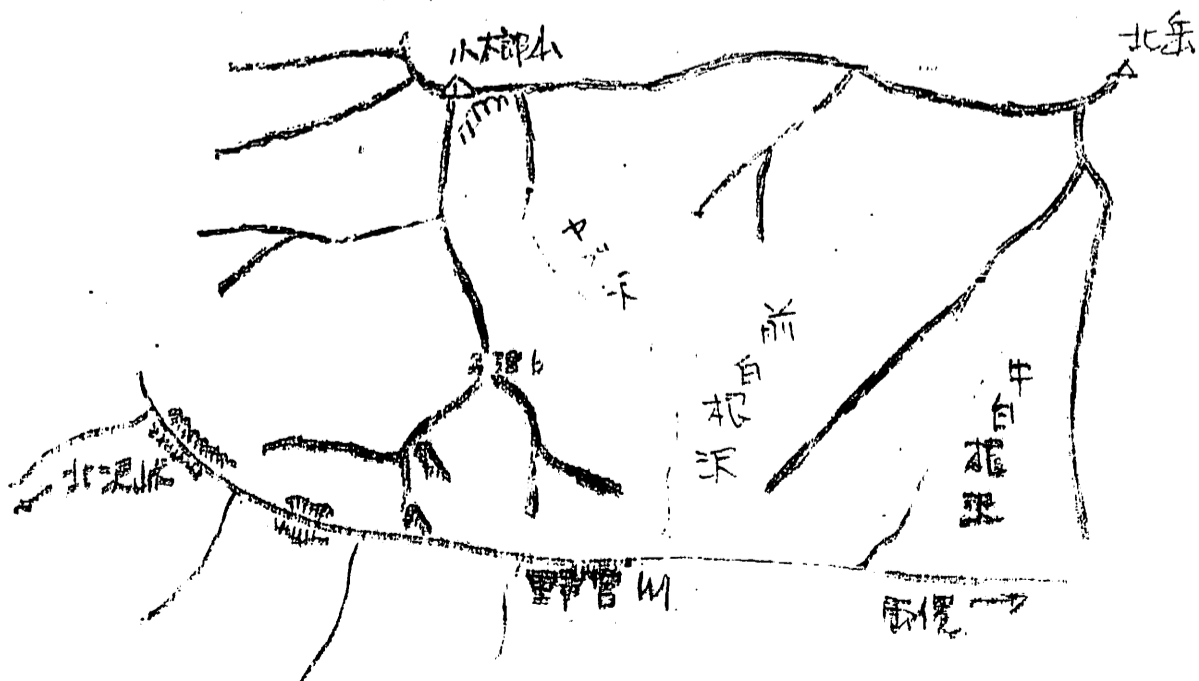
セロロガンの乱用は食はずぎのためなので各人考え食べるとする事
 B、C、オサザックて行く場合は必ず医療品を携帯する事
 大傷や小さい傷でも赤チンをけでは万全である。オキシールを携帯したかった。
 ビタミン不足(くちびるがあらぬ)が目立ってきた。これは共同装備に入れるべきものである。
 今後の山行には虫窩のためのアンモニア、体温計、ハサミ、三角巾、肺気化濃用、衛生物偵
 測をとるよう努力すること。
 医療係にゴ厄介になるのはほとんど自分の不注意によるのであり、今後上の使用回数が0
 になるように努力しようじゃないか。

合宿を省りかて

今回の合宿は天候にふりまわす小穴がある、気象判断の誤りで北岳に行きなかつた。その理由として長期予報が違つた事、梅雨と11月概念にとりかきすぎた事、谷筋においては既述の天気判断が下せなかつた事等である。今度より一層の研究を痛感した。又はいかに南アルプスに近づき、伊那から比較的かんたんに入る。縦走路は北アルプスのようにスリッパが危険はなく(鈴巻の稜線を除く)足ツツシユ、倒木、寝床に悩まされる事なく全員が地図をたぐり、事度歩技術が完全な事、増水による危険性をよく認識する必要がある。又摩利支天、北岳バツトレスは今後のキーポイントである、又北岳バツトレスへのアプローチは北沢より野呂川を下って大樽沢に入るルートが可能ならば、西侯より北岳を越えるのより1日短縮出来る。現にみたところでは増水期を除くと十分可能とおもわれる。今回の合宿をかゆまりに我々は南アルプスの絨毯な森林と美しい溪谷に親しまう。(葛西)

北岳鎌瓦根 偵察の結果

1. 取付下部はかなりの傾斜であり、野呂川川床より約30m位まではモロモロな岩石が裸出して113場所が多い。
2. 樹木はNH(Nieder Holz)で森林限界は2550m附近である。2400mより上はたいた森林ではない。川床より2386mのピーク附近までは繁生した森林帯がある(胸高直径15~30cm、樹高15~20m)又地表植物が繁茂して113。
3. 鎌瓦根の標高差は825.1m(小太郎山2725.1m、野呂山1900m)
4. 野呂川は左岸にテント地がある(減水期の4)、又空身ならば左岸より行けるが荷のある時は渡渉を余義なくされる(冬期も渡渉しなければならぬと思う)
5. 前白根沢は倒木が激しい。これは北沢もそうである(北沢の場合は流木)
6. 無雪期に取りつくなから小太郎山より下降するのでなければ1日では無理とおもわれる。この場合もバロメーターはぜひ必要である。



気象係報告

(鎌尾根隊 寺田雅治 経走隊 新幸夫)

- 6月9日 (合宿前日) 大陸に低気圧があり、本州は北緯41度・東経137度にある998mbの低気圧及びそれから延びる寒冷及び温帯前線の影響を受け雨であった。そしてこれによる降水量は前日に引続き大量であった。
しかし本邦西方、北緯33度・東経129度にある1006mbの高気圧が東ないし東北東に毎時40Kmの速度で進んでいるため明日頃が少し晴れるのではないかと思われた。
- 6月10日 (合宿初日) 本州北部及び北海道は以前北緯42度東経148度にある低気圧の影響を受け前々雨が降っているが、伊那地方では曇天で夜々回復のきざしが見えてきた。
しかし太平洋上には停滞前線が走っており、大陸の高気圧の勢力が強まれば、この前線は活動し本州に接近するのではないかと心配された。
しかし北緯31度・東経127度の1011mbの高気圧が東方に毎時10Kmの速度で進んでいるので明日も天気はもちょうであった。
- 6月11日 (合宿二日) 以前太平洋上には停滞前線があり、カラフト方面には発達した低気圧があるが、本邦は移動高におおわれたのか、上空の快適な行動日であった。
しかし停滞前線が活動しようとしており、又カラフト方面の低気圧からの前線の影響も考えるとあまり長期を期待出来なかつた。
- 6月12日 (合宿三日) 太平洋上の停滞前線は以前同様の状態で、心配とは反対にカラリと晴れたより天気である。太平洋方面から押し出した高気圧の勢力は強まっているが、しかし北緯41度・東経119度の993mbの低気圧が共に30K~40Kmの速度で東南東に進んでいるため期待出来ぬ天気配置であった。
- 6月13日 (合宿四日) 本州中部北緯36度・東経138度の994mbの低気圧があり東方にゆっくり進んでいるので、又この低気圧より東に延びる停滞前線が本州を通過しており当北は午前中曇天であったが午後から雨が降り出した。
北緯38度・東経129度には994mbの低気圧がゆっくり東に向って進んでいるので余り晴天は望めないのではないかと思う。
しかし北緯46度・東経118度の1010mbの高気圧が毎時30Kmの速度で南に進んでいるのでまうくいえば又晴天がみられるかも知れないが望みは少ないと聞いた。
- 6月14日 (合宿五日) 天気配置は変わり停滞前線は太平洋上に去り本州は移動性高気圧におおわれ良い天気である。しかし曇りが多かった。明日も又北緯41度・東経118度の高気圧の東進により晴れるのではないかと聞く。
しかし夜間より雨天に変わり、2500m以上の所では雪に変わっていた。
- 6月15日 (合宿六日) 本州は移動性高気圧におおわれ晴天なり、しかし遠くはガスがかかり快晴ではなかつた。又大陸方向には大きな気圧の谷があり、40Kmの速度で東進してきているので天気は明後日くらいからくすむのではないかと心配された。
- 6月16日 (合宿七日) 高気圧は本州東方洋上に去ったが、またかなりの範囲で本州をおおっているため晴るうじて晴天を保っていた。
しかし夜には雨となった。明日も満州から黄海にかけての大きな気圧の谷のため雨天又は曇勝ちの天気であると思われる。
- 6月17日 (合宿八日) 気圧の谷におおわれ今朝から雨が降っておりこの雨は1日中降り続く様だったが午後から少しやんで果て夕方に止んでしまった。

反省

今回の合宿中に於ける気象状況は上記の通りだが、全く私達をまどわせる毎日であった。特に本州南方に大きな低気圧の中心が通過した影響をなくかえて1006mbの高気圧の勢力が弱くなったのは、三日晴天が続いた事は以外であり思いっきり行動出来なかつた。これは気象係の未熟のためには完全なる予報の出来なかつた事をおおびします。確かに梅雨時の伊那谷周辺の気候状況を把握する必要があると痛感しました。しかし言いわけの根拠は、各地の気象台の予報も大きく狂った事からみて一面特異な状態であったのかと知りませぬ。これが私達の愚さめとは度内な事だと思ひます。又今回最低気温計を持参しましたが一台故障でもう一台の観測値も余り役に立たず、ものではなく置たる寒暖の程度を知る目易にとどまりました。次回からはもうと有効に用いたいと思ふ。特に伊那谷に於いては余り有効でないのでもう一考を要すると思ふ。それらが今回では必要でなかつたが、南アルプスのように森林が多く見透しが悪い山では高度計(気圧計)を敬しと思つた。

踏めなかつた北岳の輝きに
うろめしき晴天をにらみつて
科学的予報の心ぐるつく。